

<今朝の聖書から>

【私たちと同じ】ヘブル書2:17に“民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです”とあるように、神による救済の大きなクリスマスの出来事というのは、“罪を犯さないこと以外は私たちと同じ生き方をされた神の御子の誕生”の出来事です。神ほどの力ある方であったなら、別に人の子として生まれなくてもよかつたんじゃないか、と思う時があるかもしれません。“第一おむつの神様なんておかしい”というわけです。しかし聖書は、人と同じであったと記しているのです。私たちも、生まれたばかりの子供や、抱かれています赤ちゃんを見ますが、これとも同じだということです。

【神の母】同じだということですから、私たちの為に、人から生まれる道を、神は間違いなく選ばれたのです。十字架上の言葉において、“どうして見捨てられるのですか”と父なる神に求められたのと同じです。十字架の上で苦しんでおられたのは、後の人々の為に“苦しみのみ”をされたのではなく、本当に苦しめられたのでした。先の週報で述べたとおりです。幼子の体験もそうです。誕生に関わった人、皆が本当の神のみ子の誕生を体験したのです。“おむつをしているふり”をされたのではないのです。マリアについても同じことです。人が生まれるというのは一人では生まれません。両親があって、家族の“体験”を通して、生まれるのです。不安も山のようにあると思います。最近の調査によると、若者の半分が“できちゃった結婚”だそうです。特にこんな時などは、周囲の目や、育児についての不安や、経済的な不安から、出産という体験まで“山のような体験”を一人の人の誕生が、私たちに今ももたらしてくれます。明るく楽しい誕生の姿だけを私たちは経験するのでもありません。どんなに願っても生まれなかったとき、父と母は悩み悲しむことでしょう。障害を持って生まれた場合、家族はどんなふう思うでしょう。聖書は“不妊の女”についても、生まれながらの障害者についても、救いがそこにあることを取り上げています。

【マリア】今朝の箇所の初めに、み使いがマリアに、御心によって遣わされた次第があります(1:26~27)。それが普通の人、ただ信仰に満ちた人マリアでした。“乙女マリアを母とし”と讃美歌にあります。ただの女性でした。そして私たち信仰者と同じように生きました。十字架の言葉に“これはあなたの母です”と弟子たちに託されました。家庭の破壊を沢山見る今の時代に至るまで“家族の大切さ”と、友に対する愛を経験しました。神として崇拜されるべき“特別な母”では決してありませんでした。“子どもの死、おまけに処罰による死”を経験する“あなた自身も剣で心を刺し貫かれます”とあり“悲しみの人”であり(2:35)さえします。これが神の母だったのです。マリアを“人とは異なる”と思い、天的な存在だと思ったら、主イエスの存在も、“御国が来ますように”という願いからは離れ、天国の出来事に押し上げてしまうこととなります。

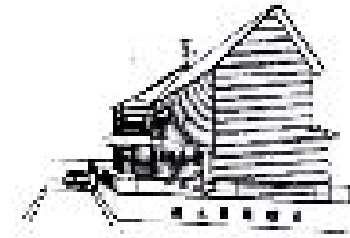
【その支配は終わることがない】“その支配は終わることがない”という方(1:33)また“生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる(1:35)”とも語られます。神の救いの完成者が、私たちの主イエスです。この方の誕生を記念して、クリスマスを讃美の内に祝うのです。もたらされる救いを待ち望み、主とともに味わい、救いの喜びを先取りし、充実した力強い毎日を送るのが教会の姿です。

【委ねた人マリア】“お言葉どおり、この身に成りますように(1:38)”とマリアは讃美をします。聞かせるためにではなく、また上手に讃美をするためにでもなく、ただ神にゆだね、一生懸命に努力して生きた人でした。

【美しいマリア】先にただの人マリアについてみましたが、間違いなくマリアは美しい人でした。容姿がどんなであったは分かりませんが、その神様との関係を見る時に、美しかったことが分かります。本心を隠すための“ほほ笑み”が美しかったのではなく、ただ信仰において教会に“美しさ”を伝えているのです。

週報

2010年 12月 19日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042